

五能線に乗って冬のリゾートしらかみに乗車する
(芸備線にリゾート列車の可能性を探る旅) その2 乗車編

目覚めればそこは雪景色。さすが雪国である。秋田駅は雪に覆われていた。



翌日、早めにホテルを出たわたしは、久しぶりのワクワク感を感じながら秋田駅に向かった。構内の物産館で色々仕込んだ後、そそくさと階段からホームに降り立った。

ホームを一通り見渡した後、リゾートしらかみの出発までには少し時間があるので到着ホームである3番線の跨線橋を上がっていくと、キツクマゲラの顔抜きパネルが現れた。なかなか愉快である。こんな工夫もおもしろい。旅の気分を盛り立ててくれる。

いよいよ3番線にリゾートしらかみくまげら編成が入線した。赤からオレンジとイエローへのグラジュエーションに塗装された前面と白地にレインボーの帯を纏った側面



が美しい。まさしくあたまの赤いクマゲラのイメージである。早速、乗り込み、内部をレポートしたいと思う。

くまげら編成のリゾートしらかみはキハ40系(48)気動車を改造し





た4両編成で、両端には
運転台がある2両編成
を2組連結した構造で
ある。リゾート特急と呼
びたくなってしまうほ
ど外装・内装とも美し
く、旅気分を大いに盛
り上げてくれる。それ
から特急のイメージが
ついてしまうほど豪華
であるが、列車種別は
なんと快速。特急料金
はならず座席指定料金
のみで乗車可能であ
ることもうれしいと
ころである。

車内でまず目を引く
のは車端の運転台の
後

ろ部分に設けられた展望ラウンジスペース。前面展望と側面車窓を意識したラウンジチェアの余裕を持った配置とデザインがいい。また、一般座席側に向けて大きなビデオスクリーンが設けられ、沿線の観光・物産などの説明に用いられている。

それから、この折りたたみ椅子。いったい何に使うのやら？この答えは、後ほど明かされることになる。



8時24分。リゾートし
らかみ1号、くまげら編
成はゆっくり秋田駅を出
発した。さて、まずは
シートについてみる。
シートは2x2でなんと
ハイデッカー仕様。ワ
インレッドを基調とし
た優雅なシートであ
る。座り心地も抜群
で、もちろんリク



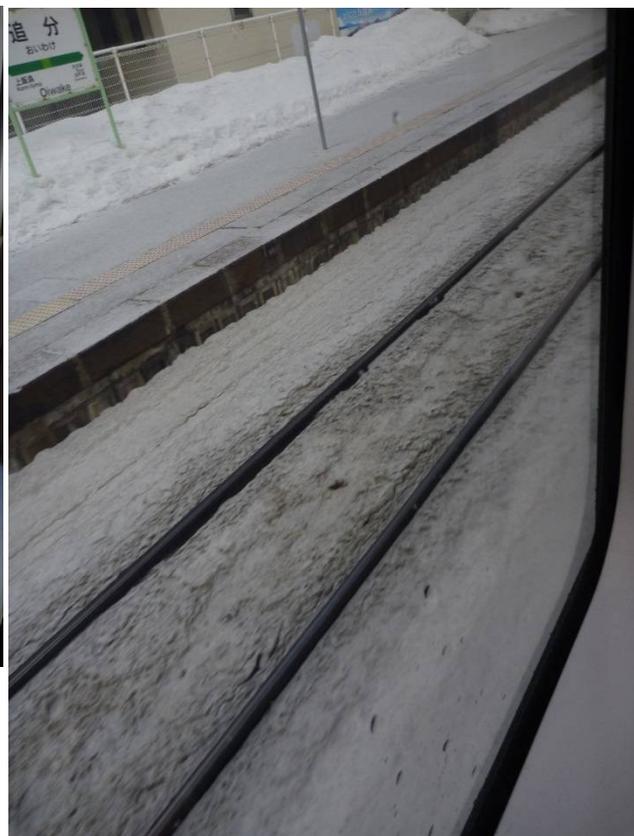
ライニング機能付き
である。それとこの
広い、足を伸ばして
も、まだまだ余裕の
ある楽々シートピ
ッチ。これは楽であ
る。正面には座席
テーブルと中央と
両脇の肘置き（そ
こからもドリンク
テーブルが出てき
た）などなど、さ
すがリゾートを冠
するだけあ



って、至れり
尽くせりの
設備である。
早速、足を
伸ばして朝か

らビールか酒でもちびちびやりたいところである。愉快愉快&満足満足である。これだから列車の旅は止められない。アルコールをやりたい気分をグッと抑えながら車内の調査を続けたいと思う。

リクライニングシートに身を沈めて、まず、びっくりしたのが窓の大きさと足元までのワイドビュー。上から下までフルワイドで車窓を堪能できる。とりわけ驚いたのは足元の光景！普通は窓から外をのぞいてもよほど覗き込まない



かぎり、複線で隣の線路は見えづらいのだが、窓際から隣の線路が余裕で見られる。これはうれしい計らいであると思う。

上部はスーパービュー踊り子号のように屋根に至る部分まで窓があるわけではないが、広



い車窓が十分確保されており、肘かけすぐ横側に窓があるのがうれしい特徴である。車窓が窓を通じて一枚の風景画になるのがうれしい。こんなに素晴らしい座席からは中々離れにくいのだが、車内の他のインテリアや設備を見てみたい。4両編成のうち、このくまげら編成では2号車がボックス席でテーブルを囲んでヨーロッパのコンパートメント客車のような雰囲気味わえる。3人以上のグループでは是非とも利用したい座席である。リゾートしらかみでは東能代でスイ

ッチバックを行うためコンパートメント側が海側になる。そのため、ここからも五能線の車窓を十分堪能できる。因みにこのシート、フルフラットになるのでお座敷のように寝ころびながらくつろぐことも可能である（テーブルは残るそうです





が)。シニアの方にも楽に足を延ばして寛げる。シートの使用法についても詳しく解説されており、リクライニングなど、せっかくの機能を十分生かしながらリゾート気分を味わえるようになっている(もちろんコンパートメント用もありました。おそらくそれでフルフラットにすることも簡単にできるとおもいます)。

シートの他にもトイレタリーの使用も利用者者に十分配慮されたものとなっている。洋式トイレをベースに広いスペースを確保しており、障害者対応にもなっている。清潔かつ快適な環境を提供している。

また、くまげら編成にあわせた鮮やかなオレンジのカラーリングが施され、統一感やイメージ



コンセプトの徹底が図られている点が、旅の気分を大いに盛り上げてくれる要素となっている。

2両目と3両目の間には運転台があり、通常は通路として開放されている。そこから運転台をまじかに見ることもできる。これはマニアにはうれしい。



それから、「快速」ではありませんが、さすが「リゾート」の名があるだけあってか！特急のような雰囲気を取り上げる大切な要素である車販(車内販売)もありました。これは、嬉しいサービスである。近年では特急

や新幹線の一部でさえ車内販売がなくなっている状況を考えれば継続してほしいサービスである。著者はこういうワゴンサービスの品物は割高であることを十分知っているのだが、なぜか買わずにはいられない性分でコ

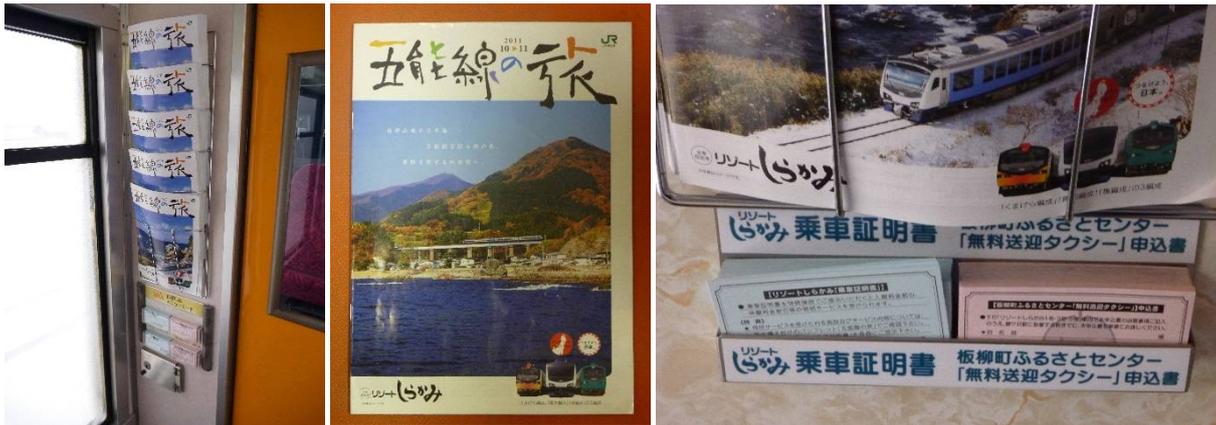
ーヒーやビールを購入してしまう。少しリッチになった気分になることで味わえるいわば非現実な体験が好きなのである。車販よ！永遠なれ！そんなことを熱く語って（思って）いるうちに列車は奥羽線内の停車駅を順調に停車してゆく。追分、八郎潟、森岳、ほぼ定刻である。



感動とともに一回目の車内巡航を終えて座席に戻って気づいたのだが、間接照明によって車内のやわらかい雰囲気をもたらされていることが判明した。直接光にしてもLED灯を用いるような工夫は乗客に対する見えない心遣いだと思う。それから、前面の網かごにあるシートの取り扱い説明書の裏側には車窓からの絶景ポイントの説明書きも施されていて至れり尽くせりだ。周ってきた車販で早速コーヒーを購入。



それから、秋田駅で仕入れた釣りキチ三平弁当をいただく。キノコをふんだんに使ったなかなかおいしい鳥飯弁当であった。あと、この時、耐えかねて朝からビールをあおったことはお許しいただきたい。



釣りキチ三平弁当を平らげ、2回目の車内巡航に赴くことにする。まず目を惹いたのが「五能線の旅」と題

されたJR東日本による観光案内&リゾートしらかみに関する紹介冊子。この冊子は2号車と3号車の運転台横に並べられ、手にとれるようになっていた。その下側には乗車証明書と板柳町ふるさとセンターの無料送迎タクシーの申込書があった。板柳町といえば五能線の青森側起点駅の川部の近くである。まさしく五能線全域を観光資源にしようとする意気込みではなかろうか。反対側にはお楽しみメニューカードが設置されていた。これと小冊子「五能線の旅」があれば、たとえ旅が無計画でも現地で何かイベントが決まってしまう。「五能線の旅」は車内だけでなくJR東日本秋田・青森支社管内の主要駅

や部分的にはHPからも閲覧&ダウンロードできるので旅の計画に役に立てることができる。

運転台のスペースから座席のある車内へ移動すると、そこには窓二つ分の何もないスペースが広がっている！



スイッチバック後、座席が反対になると顔がこちら向き、おそらくここもイベントスペースに早変わりするのだろう。客室がライブスペースに変身するイベント列車とはなかなか趣向がいい。

列車は定刻9時19分に東能代到着。駅は昨日よりも雪に覆われていた。列車はここ



で9時30分まで停車する。この時間を使って停車ホームを探索する。

東能代駅は奥羽本線から五能線が分枝する起点駅であり、いわゆるゼロキロポストがある。ここで記念写真を撮る方もいて、ホーム上のちょっとした立ち寄りポイントとなっていた。このすぐそばに昨日も紹介した



たリゾートしらかみくまげら編成の車両先頭部をかたどった待合室がある。早速なかに入ってみることとする。入ってみるとそこには待合用の椅子やスタンプ台があった。それから目を惹いたのがキハ40系（おそらく48系かな？）の運転台。外の列車正面の外観とマッチさせた配置となっている。

子供が喜びそうな設置物だと思う。停車時間の合間に座りたい。ただ、シュミレーションゲームに慣れている人たちには少々不満かもしれないが、運転台に座りながら

外から写真を撮ればリゾートしらかみくまげら編成の運転手に早変わりである。なるほどと思う工夫だ。端から端まで東能代駅を堪能して、列車に戻る。9時30分、列車はここから向きを変えて（スイッチバックします）、五能線に入ってゆく。奥羽本線は電化されているのだが、五能線に入線してしばらくするとついに架線が無くなって、いよいよディーゼルカーの本領発揮区間に入ってゆく。

しばらく列車が走ってゆくと次の停車駅、能代に停車する。能代で列車は約5分停車する。5分とはいえ少し長い停車時間である。外に出てい



わゆるひと仕事できそうな時間なのだが、実際にホームに出てみてその謎が解けた。能代と言えば能代工業高校、バスケットボール部。駅からして徹底したバスケットボール押し！能代工業高校の活躍と栄光を報じた写真や



ユニフォーム、賞状などが展示された専用スペースが設置されていた。それに加えて、なんとバスケットボールのゴールがあった。実際にボールをゴールコートに向けてシュートでき、バスケットボールを体験できるそうである。なかなか愉快的な企画でないか！5分の停車は伊達ではないのだ。ただ少し希望を言わせてもらえれば運動音痴の私にとって、5分の停車はシュートを決めるには短すぎだ。

それと一段と目を惹く大きなプレート！これこそ鉄道と地域振興の象徴みたいな存在！五能線を象徴した秋田と青森の合作！とも言えそうなものがあつた。これも芸備線で真似したい。このプレートでは写真がメインで

五能線 旅 おらほの自慢 100

まだ知らない、五能線の魅力が詰まっている。

<http://www.jreast.co.jp/akita/orahoh/>



冒険に選ばれた五能線沿線の自慢は「おらほの自慢100ガイドブック」に掲載しています。Webサイトもあわせてご覧ください。 <http://www.jreast.co.jp/akita/orahoh/>

五能線沿線の自慢は「おらほの自慢100ガイドブック」に掲載しています。Webサイトもあわせてご覧ください。 <http://www.jreast.co.jp/akita/orahoh/>

五能線沿線を訪れた県内外の皆さまをはじめ、地元の方々の推薦で決定した「おらほの自慢」100点をご紹介します。五能線沿線に行った気分で、また旅行の前にご覧いただくと旅がいっそう楽しくなります。

冒険に選ばれた五能線沿線の自慢は「おらほの自慢100ガイドブック」に掲載しています。



五能線沿線の自慢は「おらほの自慢100ガイドブック」に掲載しています。Webサイトもあわせてご覧ください。 <http://www.jreast.co.jp/akita/orahoh/>

冒険に選ばれた五能線沿線の自慢は「おらほの自慢100ガイドブック」に掲載しています。Webサイトもあわせてご覧ください。 <http://www.jreast.co.jp/akita/orahoh/>

あるが、写真 and / or イラストでも構わないと思う。ここにはこれだけたくさん見るべき&食べるべき&楽しむべきものがあるぞ〜って！訴えかけている感じである。この「おらほの自慢」はこのプレートだけでなく、JR東日本の「五能線の旅」冊子中でも紹介されている。また、この情報は随時更新されているようで最新版の「

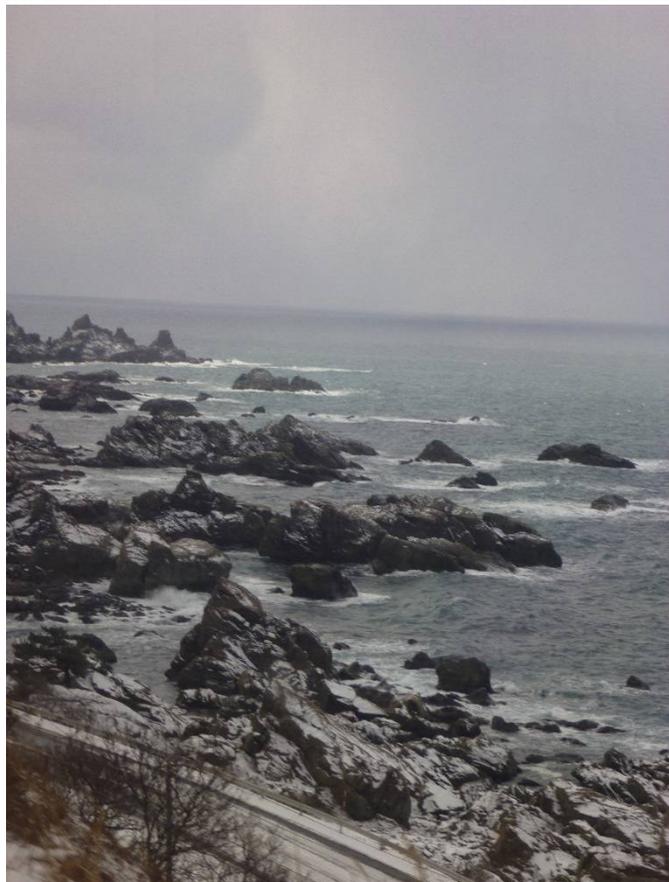
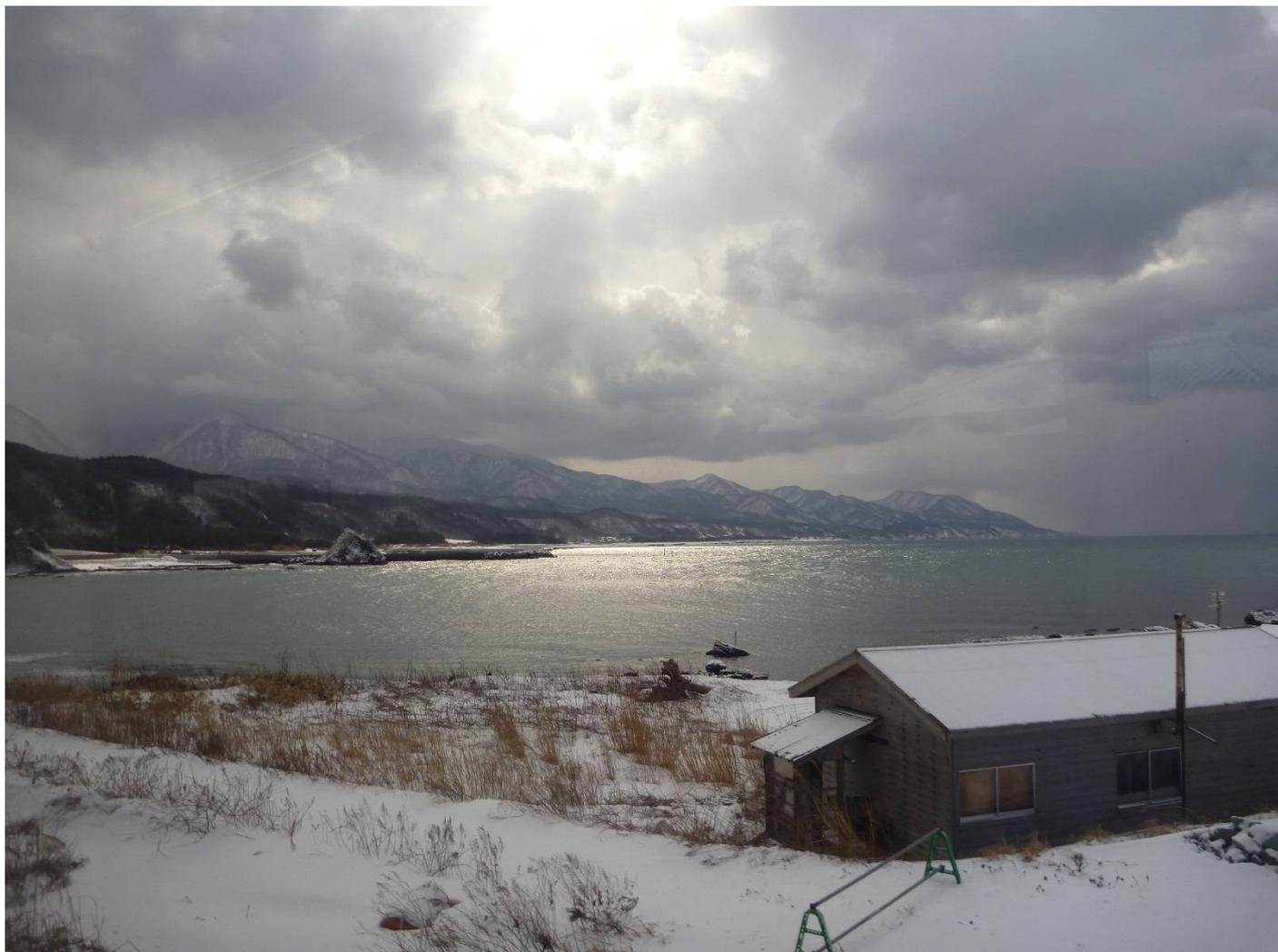
五能線の旅」やJR東日本秋田支社のHPに「五能線 旅 おらほの自慢ガイド 100」(<http://www.jreast.co.jp/akita/oraho/>) (2014年1月現在)として掲載されている。五能線の旅には是非とも参考にしたい。そんな思いを乗せつつ列車は能代駅を出発し、沿岸部を走ってゆく。



残念ながら写真を撮るのを忘れてしまったが、走行中&停車駅の直前には車掌による名所、名物、沿線観光・施設の説明のアナウンスを欠かさないとこもリゾート列車ならではの配慮であった。ハタハタ館などを有するあきた白神駅の直前では同乗したアテンダント（もしかしたら女性駅長?）による施設案内とホームでのお出迎えがあった。寒い中大変である・・・写真を取るのを躊躇したのはそのためか?後で調べれば“あきた白神中央管理センター内には女性の観光駅長が配置されており、「リゾートしらかみ」（窓口が閉まる17時以降に到着する4号・6号を除く）の到着時にはホームで乗客を出迎え、周辺の観光案内なども行う”（Wikipedia より）とのこ



と。やはり女性駅長さんだった。次回は写真を撮りたいと思う。これも次回の宿題である。短い停車の後、あきた白神駅を列車は発車し、今日も冬の海岸線を走ってゆく。そして今日も絶景だ。心持ち穏やかな気がする。



こういう非日常は中々味わえないものだ。しかも列車に座っているだけでいいのだ。



列車はあっという間に海岸線を過ぎていき、五所川原に近いところまで来ていた。昨日、十分海岸線の風景を堪能したのもあるが、時間が過ぎるのが早いとはこのことを言うのであろうか。風景紹介や沿線施設のアナウンスがあったような記憶があるが、その内容は定かでない。ちょっとしたトランス状態だったのかもしれない。

途中一度車販が通り、その際、購入したのがリゾートしらかみチョコランチである。パッケージがリゾートしらかみ



の車両ラインナップになっていて鉄道ファンや子供には人気だろう。側面もくまげら、樺（ぶな）、青池の3編成の先頭部分が描かれていた。味の方もおいしくいただける

もので、著者としてもお勧めだ。そうそう、これは確かY&K両先生へのお土産にもさせていただいた。

それから、このワゴンサービス（車販）でも、秋田駅構内の物産コーナーでも購入可能だったと思うが、地元の特産酵母（白神こだま酵母）を用いた発酵製品もお勧めである。酵母と言えばパンであるが、いかんせん日持ちがしない。そこで、良く発酵したパンをカリッと煎餅みたいに揚げた食べ物、ラスクがお勧めだ。ラスクは羽田空港や東京近辺のデパ地下でも最近人気である（例えば、Gateaufesta-haradaとか、Gouter de roi シリーズは有名だ。



それから羽田空港でもおなじみの東京ラスク(Tokyo rusk)とか)。ラスクは砂糖やチョコで甘く味付けすることも、ガーリックやコンソメで辛くビール（お酒類）にも合うようにすることも可能。食感もよく、嫌いな人はあまりいない。油で揚げた乾燥品だから日持ちするので賞味期限が比較的長いなど地域名産物として持って来いである。後付けでもいいので名産物を作ることは大切である。自身、外部資金による商品開発期間は終わったが、酵母の探索は続けております。Y先生。ヒバゴン酵母、必ず見出しますので、ラスクの開発をお願いします！



一人熱くなりながら、そんなことを思っているうちに深浦だったか鱒ヶ沢かで乗り込んできた2人のご婦人。このご婦人、先頭部分のイベントスペースらしいところ陣取って、「あの折り畳み椅子」に座ったかと思っているうちに津軽三味線の演奏が始まった。長い車両全体に広がる津軽三味線の力強い音色。とても良い企画だ。こんなリゾート列車（しかも快速）ならまた乗りたくなる粋な余興である。津軽独特のどこまでも続く薄い灰白色で覆われた雪原と鉛色の空を見ながら、心掻き出すような三味線の音色を聞いてい

ると、物言わず耐えながらも逞しい東北の魂を感じることができる。いい音楽を奏でられると知らず知らずのうち乗客が前の方に集まってきていた。最後の演奏が終わると万来の拍手（乗客はそう多くなかったですが）でした。こういう企画はいつまでも続いてほしい。リゾートしらかみではこの他にも陸奥鶴田～川部の間で（リゾートしらかみ3号、4号）津軽弁の語り部による昔話の実演もあるようだ。リゾート列車というハードとその列車を活用したソフトを工夫している点がこの列車の成功の鍵ではなからうか？夏の頃。昔話を聞きにまた来たい。また



たうれしい宿題だ。

五所川原駅を出て、陸奥鶴田、板柳に停車しながら、川部と弘前で停車とスイッチバックを繰り返して列車は終点青森に近づく。青森まで乗車しても構わないのだが、新幹線の新青森延伸で新しくできた新青森駅をこの際見ておきたい。13時25分、列車は新青森に到着、そしてここで列車を降り立った。折り返しのリ



ゾートしらかみ4号（14時00分発）をここで待つこととする。その間の時間を使って新青森駅を探索してみる。

新青森駅は東北新幹線の青森延伸による新幹線終着駅と北海道新幹線との接続点としての役割を持って2010年12月に本格開業した新しい駅である。確かに、新しくそれなりの活気があるのだが、少し暗く感じるのは当時から行われていた東日本大震災による節電対策のせいなのか？それとも施設に対する人の少なさがそう感じさせるのか？歩いてうすら寒く思ってしまった私であった。ただ、構内にはあおもり観光情報センターやお土産などを扱う旬味館があり、青森の情報・物品を効率的に仕入れることができる。また、列車案内板などは見易いLED表示である。新幹線駅のホームはともかく在来線の奥羽本線のホームは1面2線でやや寂しい感じがあるが、効率的に在来線に乗り換えられると考えれば効果的な構造なのかもしれない。手早く構内を観察して、旬味館に

入って青森のお土産とお酒&肴、そして駅弁を手早く購入した（やや酒多めではありましたが・・・）。



13時59分、定刻通り、リゾートしらかみ4号秋田行きが到着した。時折、粉雪が舞う中、先ほどまで乗っていたくまげら編成がホーム入ってきた。寒いのでそそくさと車内に乗り込む。車両前面と側面に着いた雪が沿線の風情と苛酷さを物語っている。こ



ういう要素も旅人には嬉しいものなのだ。まるでわびさび感じる季語のようなものであろうか。

帰りも行きと同様に乗車レポート続けようと思ったが、新青森の旬味館で購入した地酒が効果的にまわっていい気分写真も撮らず、メモも残さず熟睡でありました。それと、新青森駅出発後、横殴りの雪が降り続き、自慢のワイドスクリーンにも雪が付着してしまふ。車内が暖かいだけに振った雪がガラス

表面で溶けた後、すぐ凍って次から次に雪が付着していった。こうなると自慢の車窓もへばりついた雪と氷の間から拝むしかなくなってしまった。これも風情。そう納得しながら酔いを楽しんだ。

程よく気持ちよくなった体を列車の振動にまかせながら、弘前、川部、五所川原とリゾートしらかみが進んでゆく。鱒ヶ沢を過ぎたころ、突然に雪がやんで日が射し始めた。これはラッキーだ。そう思いながら海岸の光景を楽しんでいた。間もなく



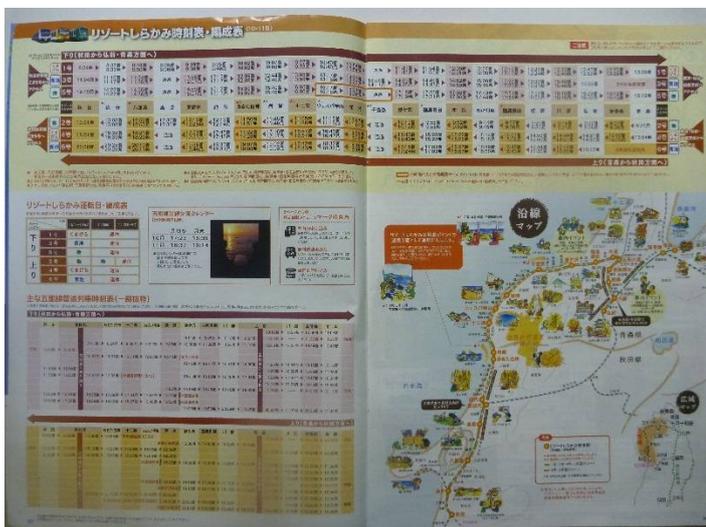
列車は深浦に定刻到着（16時26分）。16時32分の発車まで時間があるなあ～と思っていたら、隣のホームに青いリゾートしらかみこと青池編成（リゾートしらかみ3号、弘前行き）との列車交換であった。



リゾートしらかみには私が今回乗車したくまげら編成の他にも世界遺産白神山地を彩る新緑の樺をイメージした樺編成、それと青池と日本海の青をエクステリアコンセプトとした青池編成の3つがある。ちなみにくまげら編成は白神山地に生息するクマゲラと沿線海岸に沈む夕日がイメージされている。樺編成とくまげら編成はキハ40系の気動車をベースに改造されたディーゼルカーであるが、青池編成はディーゼルエンジンと蓄電池を備えた次世代ハイブリット気動車（HB-E300系）である。ステンレスをベースに耐久性にも優れた車両で青森地区の「リゾートあすなろ」や長野地区の「リゾートビューふるさと」にも使用されている形式である。古い車体の改修車だけでなく最新鋭の車両を投入するところにJR東日本の本気度をうかがい知ることができる。JR西日本はどうだろうか？インテリアにもエクステリアにも単に同じくすることなく、特徴的なコンセプトを持たせて運用するところなど、「今度はまた違うのに乗ってみよう！」となってしまう。知らない間に旅のリピーターである。



あとそれから、このような車両情報や停車駅の時間・観光などの情報を簡単に得られることも重要である。今回の車両情報も実はJR東日本による「五能線の旅」の小冊子から多くの情報を得ることができたためである。この何気ない小冊子には、列車の車両情報のみならず、停車駅と時刻表、分かりやすくイラスト化された沿線俯瞰地図、沿線停車駅を中心としたグルメ、体験学習・散策などコース案内、温泉などリゾート施設、観光・文化・名勝地、宿泊施設、車販内容の紹介と簡単な説明など、これ一冊で五能線とその沿線のアミューズメント

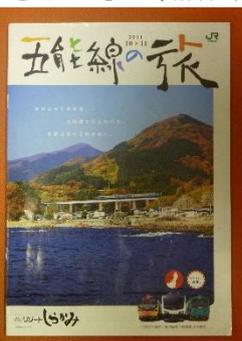


(これは時刻表、乗り継ぎを知るのに便利なデザイン) (こちらは各停車駅の観光情報。各駅に特徴が満載！)



(←こちらには車内販売の情報が！それとホテル&旅館に関する情報も。これだけあれば、宿にも困らない)

に関する情報を遍く集めることができた優れたものであった。それから、ネットで閲覧可能な「五能線のおらほ自慢」のコーナー紹介も忘れてはいない。このような列車観光案内誌を観光リゾート列車とともに用意できるのも地域活性成功のポイントの一つではなからうか？前述したよう



にこの小冊子はリゾートしらかみの車内や秋田、青森などの主要駅において無料で配布されているので、五能線の旅にあたっては是非とも手に入れてほしいものだ。できるなら首都圏やJR各社主要駅にも置いてほしいものであった。

(←これは2011年版、確か最新版も出てるはず)

それから、これはとても定番であり、ある意味忘れて欲しくない鉄道旅の要素の一つであるスタンプ！これもこの沿線ではしっかり管理されていたように思う。近年、色々な鉄道趣味を持つ「鉄」が現れているが、「スタンプ鉄」なる趣味人も少なからずいるようでこのような方々にも五能線はとても魅力的であると言えそうだ。



(←深浦駅のスタンプ。北前船版(左)とリゾートしらかみ版(中央)、そして、これらのスタンプ用紙の表側はリゾートしらかみ3兄弟(右)でした)

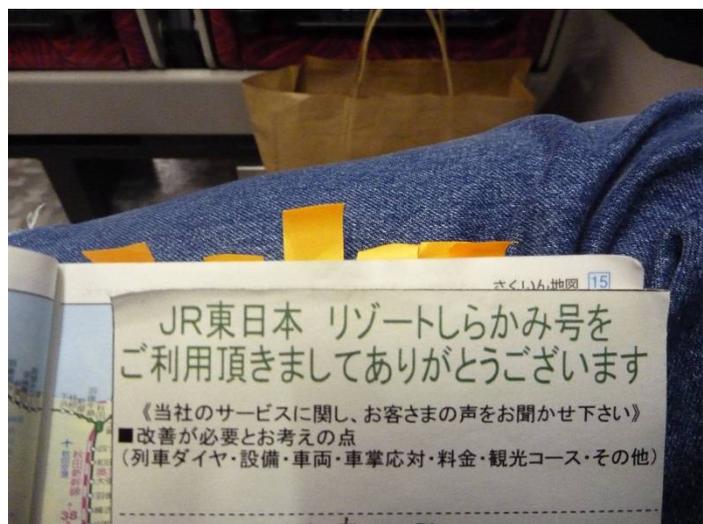
リゾートしらかみが停車する各駅に置かれているスタンプをお目当てにスタンプラリーを楽しむのもとてもいい鉄道の遊び方ではないかと思う。各駅停車や奥羽本線をうまく乗り継ぐことで面白い乗り鉄ができそうだ。

それに、例えば2日間乗り放題で”快速“のリゾートしらかみには指定席券のみを購入すれば乗れる！という「五能線フリーパス：3700円、2011年時点」などの企画切符もJR東日本から随時提案されているようである。このようなフリー切符や企画切符をうまく利用することでより面白く、よりお得な鉄道旅もできそうなのだ。だから、企画列車を長く走らせるには様々なアイデアをこれでもかと提案することがとても大切なことなのだ。失敗を恐れ動かないくらいなら、たとえ失敗しそうでもまず走り始めた方がいい。列車も乗らねば魅力も半減。それと同じ精神だと思う。もし芸備線と同じこと行なうなら広島の方々にはまずそれを言いたい。

こんなことを夢想しながら車窓を眺めていたら、いつの間にか「青池」の列車交換は終わり、再び降り始めた雪が舞う海沿いを列車は走って行った。本来なら（夏場なら）この時間は海に落ちる夕日が美しいのだが、荒れる海と暗くなり始めた濃い鉛色の空しか見えない時間が長く過ぎていった。気づくともう秋田県境に近い。



「コロボックル」と名付けられたウェスパ椿山の物産館が見えた。確かここには展望温泉があったなあ～。いや待て、その前のバスは「黄金崎不老不死温泉」はじめ、近くの温泉地への送迎バスではなかろうか？また、ここでも宿題が見つかったわたしである。次回は温泉も堪能してゆっくりしよう。



十二湖駅に停車。美しいイラストの観光案内板がまるで「宿題を忘れるな」と言いたげに目の前に迫る。忘れてはいない。次回は十二湖（青池）の探索も行いたい。そう誓った（公園内なので泥のサンプリングは無理でしょうね）。列車にはまったりとした時間が漂う。うつらうつら寝るでなく起きるでなくそんな時間が過ぎてゆく。

列車は秋田県に入り、あきた白神駅に隣接した賑やかなハタハタ館を見て、これも宿題かなあと思いつつ、しばらくまどろんでいると唐突に声をかけられた。「昨日も普通列車に乗られていたお客さまですね！」若い車掌がリゾートしらかみ号に関するアンケートをお願いしてきた。少しびっくりしたが、そういえば昨日、深浦からの普通列車の常務車掌であった彼を見た覚えがある。深いお辞儀とともにアンケートを受け取り、色々書いた。「いつもご乗車ありがとうございます」そう言い残してかれは次の車両に消えていった。こんなアンケートも必

要だな。鉄道振興はお客様あってのもの。改めて思う。そして良き客でありたいものだ。



随分走って列車は17時51分に東能代駅に停車。少し暑くなった車内のせいで火照った頭を外で冷やす。外はもう真っ暗である。この旅もいよいよ最後に近づいている。ここから気づいたことなのだが、リゾートしらかみの列車種別は快速。だから指定席料金さえ払えばゆったりとしたシートで秋田まで行けるのだ。折しも家路に向かう通勤通学の時間帯で、よく見ればサラリーマンや通学生の姿も車内に見えるようになった。なるほど！リゾートだけではなくホームライナーのような使い方もできる企画列車とは恐れ入った。



車内に戻り、1時間近く暗い車窓を眺めつつ過ごす。

18時51分。列車は定刻に秋田に戻ってきた。側面にも先頭にも雪を付けて。

2日間の乗車調査を無事終了することができた。芸備線振興とそこでの企画列車の可能性と効果について様々な思索と課題、そしてアイデアを得ることができた旅であったことに満足感を感じつつ、准教授は秋田のホテルに向かうのであった。今日も地酒と比内地鶏を食べることも夢想しつつ。

この翌日の羽越線いなほ号グリーン車缶詰事件&
新潟原油湧出地ほとんど遭難サンプリング事件が起こることも知らずに……

時は流れ、今は2014年1月。この乗車から既に2年近く経過しようとしている。留年した彼も昨年6月には学科長の苦勞と彼のママパワー炸裂で強引に卒業となり、眠り姫ならぬ眠り王子である〇〇道と名のつく武道サークルの主将（であった）の3年生も4年生になり、半ば強引に現実を見せることが功を奏したのか、ここ数日何とか

朝からラボに来て卒論に取り組んでいる。そして今、ほぼ留年だと思っていた彼の卒論要旨を修正しながらこの記録を書いていると、私の近くいる人々のタスクを何とか終わらせようとして、日々苦勞している自分があることがわかる。そして、そのタスクは日々増えつつあるのだ。だが、自分のタスクはどうだろう？仕事とかではない。人生のタスクだ。そして、それはまだ、未解決なままではないのか？タスク！そう、あの宿題を解きにまた戻らねばならないと思う。鉄道というありがたい指導教官を持ったものだ。このわたしは。



「五能線に乗って冬のリゾートしらかみに乗車する（芸備線にリゾート列車の可能性を探る旅）」 完